

ユニオンファンド 臨時レポート

ユニオンファンドの基準価額は、2月21日の25,602円から2月26日には24,464円へと、2営業日で4.4%下落しました。

弊社は、1日で5%以上の値下がりとなった際にお客様に状況をお伝えすることにしてはいますが、ほぼそれに匹敵する下落となりました。

お客様からのお問い合わせも普段より幾分多めにいただいておりますので、現状と今後の見通しなどについて、やや長くなりますがお伝えいたします。

目次

- ・ 新型肺炎と株価下落
- ・ バフェット氏の見方と過去の行動
- ・ ユニオン投信が目指すものと投資の仕方
- ・ 差し当たりどうしたらいいのだろう
- ・ 恐怖と強欲でペースを崩さない

新型肺炎と株価下落

皆様ももし先行きを懸念しておられるとしたら、それは、値下がり理由とされている新型コロナウイルスの影響が今後どうなるか、ということだろうと思います。

ただ、このウイルスにはわかっていないことがまだたくさんあり、今後について予想することはとても困難です。2月上旬に月次レポートに書いたときと、早くも状況が異なってきたほどです。

まずは、中国国内での感染者数ですが、増加ピッチは予想していた以上に落ちてきました。また、治癒した人の数も着実に増えています。これらは良いニュースであり、世界の株価がウイルスをものともせず上がってきた一因でもあります。

ただし、新規の感染者数の鈍化については、カウント方法が再度変わった影響もありそうで、実態がつかみにくい点があることには一応の注意が必要と思います。一度治った人が再度発症するケースがあると伝えられている点もやや気がかりです。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

逆に、悪い方に大きく変わってきたのは、中国以外で感染者が増えていることです。このことは株価の動きにも表れており、発生当初は中国株が最も売られました。直近では欧米株が大きく売られました。

元々予想されていた消費の停滞だけでなく、生産活動への影響が予想以上に広がりそうだという点も、投資家の不安の種となってきました。米国のアップル社が売上予想を引き下げたのも、需要と供給両面の影響を考慮したためでした。

未知の部分がまだまだ多いこの新型肺炎の威力は、決して侮ってはいけません。では、今回の災いが世界経済を大きく揺るがす致命的な大災害に発展し、またその影響が長く残るようになるのでしょうか。

世界の人口や経済規模からすれば、決定的なダメージをもたらすほどではないでしょうし、当面いろいろ困難はあるものの影響が非常に長期にわたるという可能性も大きくはないと考えています。

バフェット氏の見方と過去の行動

ウォーレン・バフェットという人をご存じでしょうか。世界的な大富豪であり、「投資の神様」などとも称される米国人経営者です。

バフェット氏が最近、この件に関していかにも彼らしいことを言っていましたので、ご紹介します。

「真に問われるべきことは、米国企業の10年、20年先の見通しがこの1日2日で変わってしまったのか、ということだ」

まさかそんなことはないだろう、というのが彼の考えです。

そのバフェット氏は、かつてNYタイムズ紙（2008年10月16日付）に「私は株を買っている」という内容の寄稿をしたことがあります。リーマンショックに端を発し「百年に一度の危機」とまで言われた大混乱のさなかのことでした。

その後株価はすぐに上がったのでしょうか。違います。およそ半年間にわたり、さらに大きく下落しました。ざっとこんな具合です。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

- ・2008年10月16日（寄稿した日）のダウ平均株価終値 8,979.26 ドル
- ・翌年3月9日の株価大底 6,547.05 ドル …ここまで約27%の下落

では、彼の投資は失敗だったのでしょうか。直近2020年2月26日の終値は26,957.59ドルですから、むしろ大成功だったと言うべきでしょう。仮に10月16日に全部買ったとしても、約3倍に値上がりしたのですから。（配当金も加えれば、さらに大きな利益が出ていたことになりま

ユニオン投信が目指すものと投資の仕方

ユニオンファンドは、世界400以上の企業に投資しています。その中には、今回の新型コロナウイルスの拡大で、損をする企業もあるはずですが、

しかし、組み入れているファンドの運用会社は、個々に企業を調べつくし、選びを選んで買っていますから、投資先企業がバタバタと倒産していくとは到底思えません。

それどころか、優れた経営者の元で長期的に成長できる戦略を実行している企業が圧倒的多数ですから、危機が去ればいち早く立ち直り、それまでの成長軌道に多くの企業が戻っていくものと思っています。

株価上昇という成果が出るのがいつになるかは正直分かりません。しかし、実力のある企業は1年、2年と時間がたつごとに、業績拡大という形で結果を出していくことでしょう。投資家は、こうした企業を放っておくはずがありません。いったん売ったとしても、混乱が収まり状況が改善するにつれて、買い戻してくることでしょう。

そうした企業に投資している限り、何が起ころうがバタバタする必要はない、と私たちは考えています。

だれしも値下がりはいやなもので、それは私も同じです。しかし、値下がりにはチャンスでもあります。そのことは、定期定額投資（「つみたて投資」）を数年経験された方ならよくお分かりになると思います。

私たちユニオン投信が目指しているのは、バフェット氏のように、目先の株価変動や損得の誘惑に惑わされることなく、いいと思ったものを買い続けるという至極シンプルな投資を通じて、皆様に大きな果実を得ていただくことです。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また載された意見・見通し・評価結果等は作成日時時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

差し当たりどうしたらいいのだろう

株式投資の方法は絶対にこれ、というものはありません。余裕資金や性格などなど、人によって投資の仕方は千差万別でいいはずで、というわけなので、この項はあくまでも一例としてお読みいただければと思います。

まず、ある程度の余裕資金があり、値下がり局面で口数を増やしたいと思われるなら、今のような下げ局面は買い時かもしれません。

ただ、バフェット氏がそうであったように、買ってからさらに値下がりを味わうことはよくあります。よくあるどころか、ほとんどそうなるといってもいいほどです。底値を買うことができるのは、ほんの一握りのラッキーな人のみであり、うまくいったとしても単に「たまたま」に過ぎません。

買ってからさらに下がるのが嫌であれば、まずは半分買っておく、という方法があります。もし急反発しても、半分は買えたのでよかったわけですし、逆にさらに値下がりしたら、買うための資金がまだ半分残っていてよかった、と思えばいいでしょう。

おカネが必要なのでどうしても売りたいという人は、これもまずは半分売るのがいいかもしれません。ウイルスと肺炎が蔓延する恐れは残っているからです。

もしおカネが必要なのに全く売らないで頑張っ続けると、さらに下がった時のショックが大きくなります。やけを起こしたり、これ以上の値下がりはどうしてもいやだという思いから、底値近くになって全てを売るという最悪のパターンになりかねません。株価が下がれば下がるほど、売ることの合理性があると思えてくるので、こうした行動に陥ってしまう人は多いのです。しかしそれは何としても避けたいところです。

いまのうちに半分売っておけば、さらに下がってもそれ以上の損を半分抑えられたと思えます。もし逆に大反発した場合には、半分残しておいてよかった、少ない口数を売るだけで必要なおカネを用意できる、と動くことができます。

恐怖と強欲でペースを崩さない

米国のフランクリン・ルーズベルト大統領は、大恐慌真ただなかの就任演説（1933年）で、「我々が恐れるべきことは恐怖そのものだ」と言いました。人々の恐怖心こそが消費や投資を委縮させて景気を悪化させる元凶になると見抜いていたわけです。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

株式投資にも似たところがあります。投資家の恐怖心こそが、しばしば株価の大幅下落を引き起こしてきました。今回の下落にもそうした面が多分にあると見ています。特に、ウイルスのような見えない敵が相手の時、恐怖は広がりやすいですし、未知のウイルスであればなおさらです。

ただ、逆の話もあります。そもそもここまでの株価が高過ぎたのかもしれない、ということで。典型的なのはPER（企業の利益に対する株価の高さを示す指標）です。計算の仕方などによって評価は多少分かれますが、少なくとも米国株については全体として割高感が強いと見ています。

言い換えれば、企業業績と株価の先行きに関して、投資家の判断には楽観的過ぎる部分があると思うのです。そこに新型コロナウイルス騒ぎが持ち上がり、目が覚めたという面もあったと感じています。企業業績の予想が今後大きく落ち込んだりしますと、先行きへの期待感もこれに並行して弱気の側に傾き（つまりPERが低下）、さらに株価を押し下げるといった可能性もないとは言えません。

ここまで読んでお分かりいただけたかもしれませんが、投資家の楽観と悲観が左右する株価の目の動きなど、わからないことの方が圧倒的に多いです。底値を買おう、下がる前に売ろう、などと考えるのは、あまり益のあることとは思えません。

そうではなくて、「今後下がることがあるとしても長期では上がる」と思っておられるなら、先ほどのバフェット氏のようにこのくらいの下落におののいたりせず、うまく売って下がったら買い戻そうなどと妙な欲を出したりもせず、ゆったりとこれまでどおりの投資を続けていくだけで、いずれ十分な成果が得られるものと確信しています。

つみたて投資で着実に資産を増やしておられる多くのお客様には、ここで売ったり、毎月のつみたて金額を減らしたりするのではなく、増やさないまでもこれまでと同じペースでぜひ続けていただければと思います。

運用責任者 久保田徹郎

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

『ユニオンファンド』のリスク

－ 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご覧ください。－

ユニオンファンドは、主に国内外の株式などに投資する投資信託証券等に投資するファンド・オブ・ファンズの形式で運用を行います。組入れる投資信託証券等は、株価変動、金利変動や債券発行者の経営・財務状況の変化等で値動きします。また、為替相場の影響を受ける投資信託証券等もあるため、ファンドの基準価額も変動し、損失を被ることがあります。したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。

当ファンドの主なリスクは、「価格変動リスク」、「為替変動リスク」、「カントリーリスク」、「信用リスク」、「流動性リスク」です。

『ユニオンファンド』の手数料等

－ 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続・手数料等」をご覧ください。－

申 込 手 数 料 お申込みにあたって弊社にお支払いいただく手数料はありません。
※スポット購入時の購入用口座への振込手数料はお客様負担となります。

換 金 手 数 料 ご換金（解約）にあたって弊社にお支払いいただく手数料はありません。

信 託 財 産 留 保 額 ありません。

信 託 報 酬 純資産総額に年 0.88%（税抜 年 0.8%）の率を乗じた額です。
毎日、信託財産の費用として計上され、基準価額に反映されます。
[*実質的な信託報酬（概算）：純資産総額に対して年 1.8% ± 0.3%（税込）]
* 実質的な信託報酬の率は、『ユニオンファンド』が投資対象とする投資信託証券でかかる信託報酬を含めたものです。あくまでも目安であり、組入状況により変動します。
※ 信託報酬にかかる税金は、税法等が変更・改正された場合、変更になることがあります。

そ の 他 の 費 用 上記のほか、次の手数料・費用等が信託財産の費用として計上され、基準価額に反映されます。

- ① 組入有価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料（消費税等相当額の費用を含みます。）
- ② 信託事務の処理に要する諸費用、受託会社の立て替えた立替金の利息、監査法人から監査を受けるための費用（監査費用）（消費税等相当額を含みます。）

※ 監査費用は弊社が一部または全部を負担することがあります。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。